



2026年3月期第3四半期決算説明資料



目次

- I 2026年3月期第3四半期決算ハイライト
- II 2026年3月期 第3四半期決算概要
(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)
- III 「中期経営計画2027」の補足説明

- I 2026年3月期第3四半期決算ハイライト
- II 2026年3月期 第3四半期決算概要
(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)
- III 「中期経営計画2027」の補足説明

2026年3月期第3四半期決算ハイライト

■受注高

運営事業において前期の大型案件や複数年一括計上の反動減があったものの、
システムソリューション事業の大型案件や海外事業が好調に推移し、前期を上回った。

(参考)受注残高：'25/3期3Q末 343,697百万円 ⇒ '26/3期3Q末 379,567百万円(+35,870百万円)

■売上高・利益

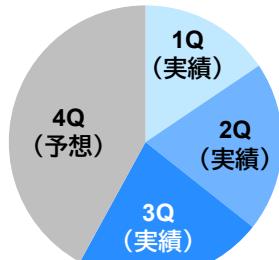
売上高は、北米・欧州子会社において主力製品が好調に推移したほか、環境エンジニアリング事業の大型工事が順調に進捗し、全セグメントで増収。

利益は、海外事業および環境エンジニアリング事業の収益性改善により増益となり、各利益ともに大幅な増益を達成。（経常利益は為替差益409百万円を含む）

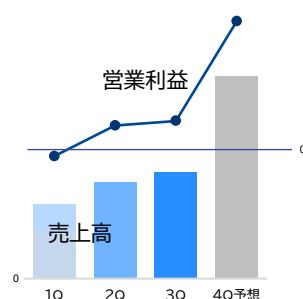
'26/3期通期業績予想

'26/3期1-3Qの業績は、おおむね計画通りに進捗しており、2025年10月27日に公表(上方修正)した通期業績予想を据え置く。

'26/3期 四半期別売上構成



四半期推移



(百万円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	第2四半期末 1株当たり配当金(円)
'26/3期 1-3Q実績	180,009	122,980	3,248	3,645 ^{※1}	2,284	35
前期比 : +12,926 +7.7%	前期比 : +24,524 +24.9%	前期比 : +3,601	前期比 : +3,984	前期比 : +3,269		
'25/3期 1-3Q実績	167,082	98,456	-352	-338 ^{※2}	-984	24
'26/3期 通期予想 (2025年10月27日付)	242,000	210,000	13,000	12,800	8,900	(年間) 70

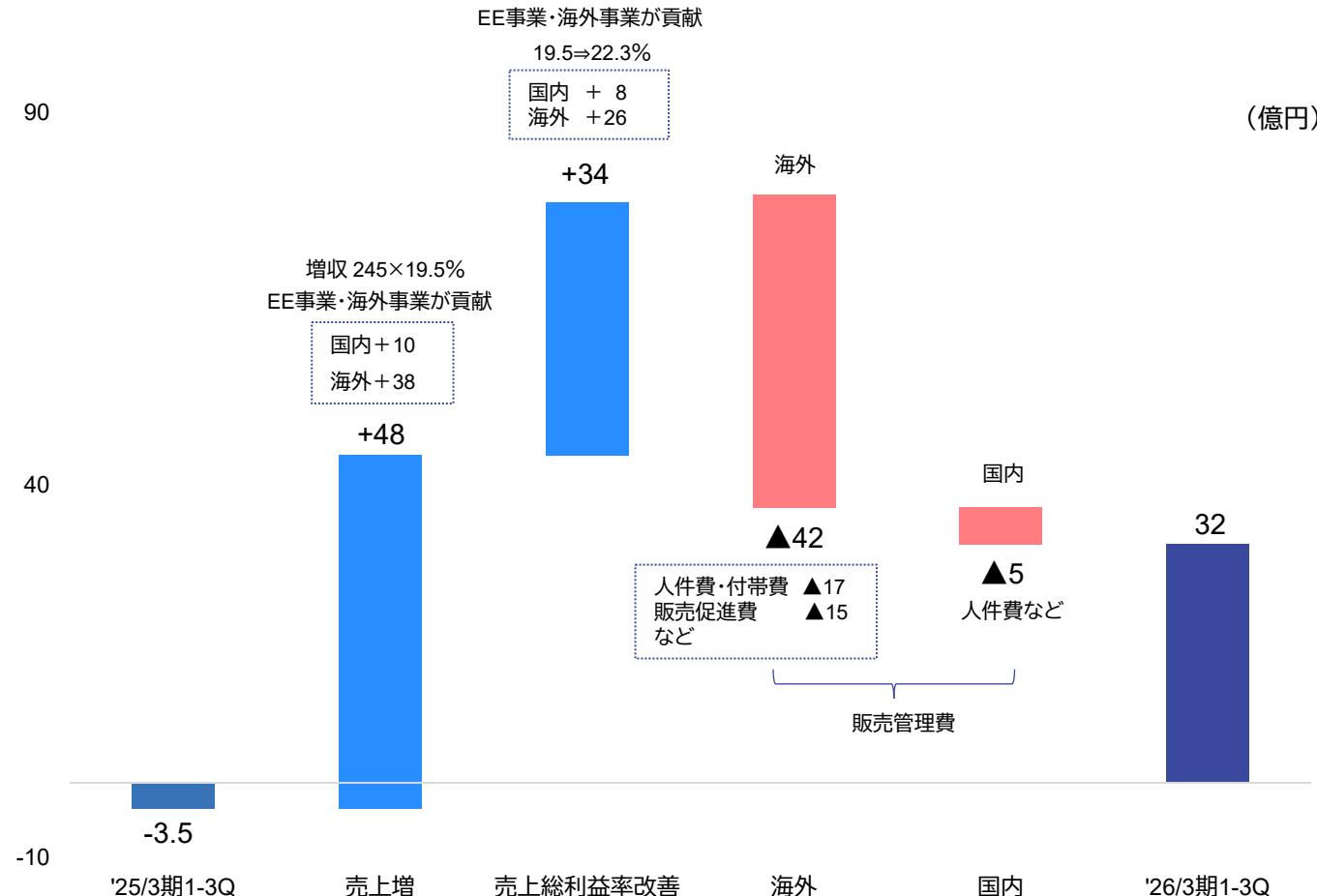
*百万円未満切り捨て(以降の1-3Q値も同様)

※1:為替差益409百万円

※2:為替差益215百万円

'26/3期1-3Q 対前年 営業利益増減

環境エンジニアリング事業・海外事業の增收、収益改善効果などが寄与。



'26/3期1-3Q セグメント別(連結)実績

受注高：運営事業において前期の大型案件や複数年一括計上の反動減があったものの、
システムソリューション事業の大型案件や海外事業が好調に推移し前期を上回った。

売上高：環境エンジニアリング事業および海外事業の北米子会社が好調に推移し、全セグメントで増収。

営業利益：運営事業において(株)みずむすびマネジメントみやぎの減価償却費負担などがあったものの、
海外事業、環境エンジニアリング事業の売上高の増加や収益改善などにより増益。

(百万円)

	受注高			売上高			営業利益(営業利益率)		
	'25/3期 1-3Q	'26/3期 1-3Q	前期比	'25/3期 1-3Q	'26/3期 1-3Q	前期比	'25/3期 1-3Q	'26/3期 1-3Q	前期比
環境エンジニアリング事業 (EE事業)	41,006	43,604	+2,597	27,943	34,223	+6,279	-92	1,371 (4.0%)	+1,463
システムソリューション事業 (SS事業)	45,952	58,635	+12,683	26,679	28,826	+2,146	-2,284	-2,148	+135
運 営 事 業	49,915	33,393	▲16,522	18,233	18,803	+570	859 (4.7%)	623 (3.3%)	▲235
海 外 事 業 ^{※1}	30,208	44,376	+14,168	25,599	41,126 ^{※2}	+15,527	1,164 (4.5%)	3,401 (8.3%)	+2,237
合 計	167,082	180,009	+12,926	98,456	122,980	+24,524	-352	3,248 (2.6%)	+3,601

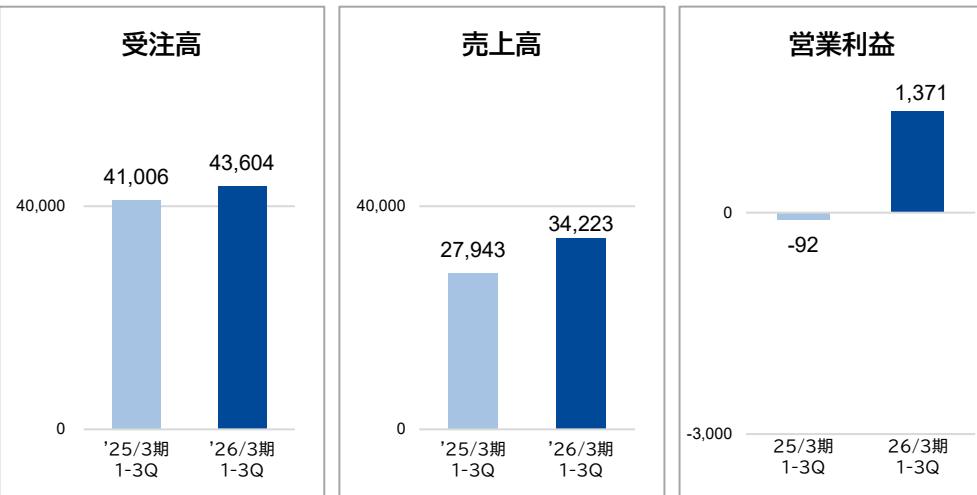
6 ※1: 為替レート '25/3期1-3Q 151.4円/\$、「26/3期1-3Q 148.0円/\$

※2: 為替影響: 売上高 ▲842百万円、営業利益 ▲83百万円

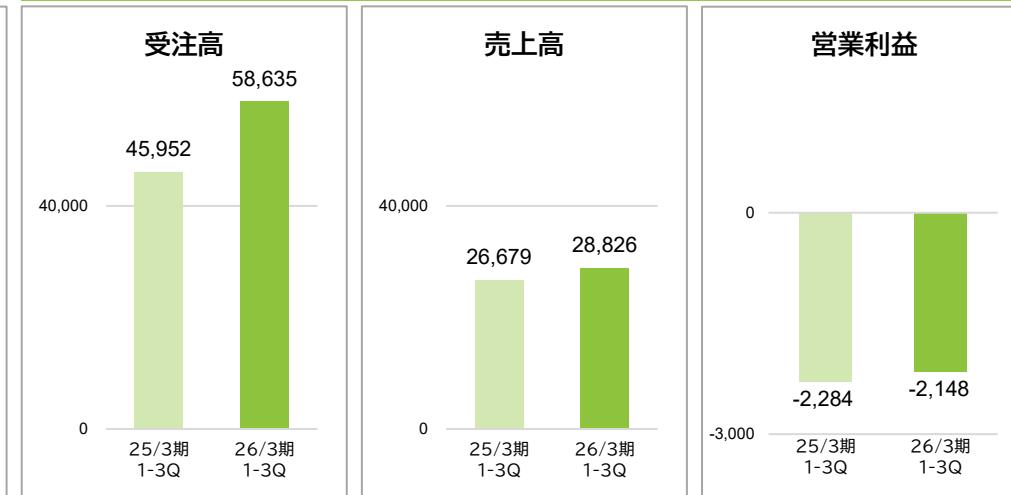
セグメント別 概要①

(百万円)

環境エンジニアリング事業



システムソリューション事業



【受注高・受注残高】

受注高は水環境事業・資源環境事業共に前期を上回った。

受注残高115,025百万円→110,894百万円

【売上高・営業利益】

水環境事業における大型の建設工事や、資源環境事業における修繕工事が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

【受注高・受注残高】

受注高はシステムエンジニアリング事業・カスタマーエンジニアリング事業共に前期を上回った。

受注残高84,355百万円→101,135百万円

【売上高・営業利益】

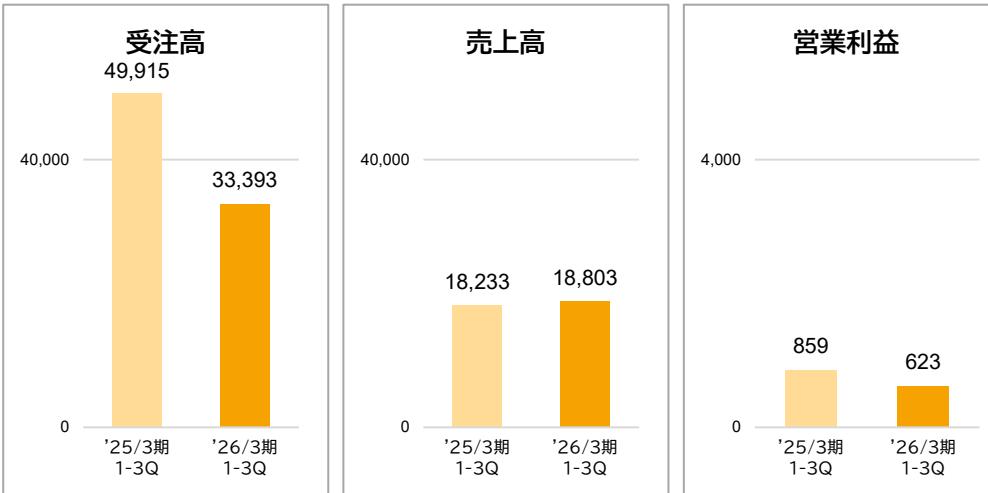
システムエンジニアリング事業においては、大型工事が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

カスタマーエンジニアリング事業においては、修繕工事が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期と同水準となった。

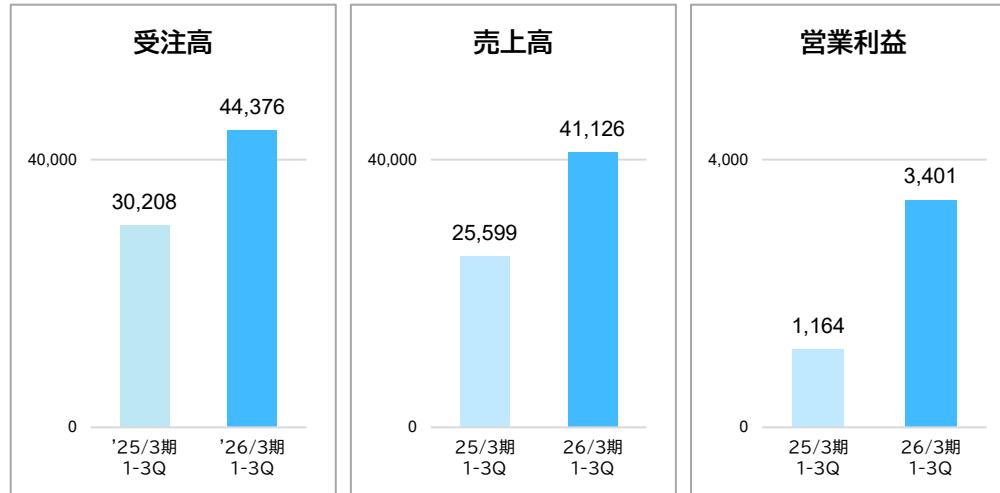
セグメント別 概要②

(百万円)

運営事業



海外事業



【受注高・受注残高】

受注高はサービス子会社における複数年契約の一括受託の反動により前期を下回った。

受注残高110,628百万円→117,609百万円

【売上高・営業利益】

売上高は順調に推移し前期を上回ったが、営業利益は一部の低粗利案件の影響により前期を下回った。

【受注高・受注残高】

受注高は北米および欧州子会社の主力製品を中心に引き合いが好調に推移し、前期を上回った。

受注残高33,687百万円→49,927百万円

【売上高・営業利益】

北米および欧州子会社において主力製品の販売が好調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

* うち為替影響：売上高▲842百万円、営業利益▲83百万円

* 海外子会社買収時の「のれん」ほか無形固定資産などの償却(7.0億円)処理後

* 為替レート：'25/3期1-3Q 151.4円/\$、'26/3期1-3Q 148.0円/\$



目次

- I 2026年3月期第3四半期決算ハイライト
- II 2026年3月期 第3四半期決算概要
(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)
- III 「中期経営計画2027」の補足説明

'26/3期1-3Q 連結損益計算書(対前年増減)

	'25/3期 1-3Q実績	'26/3期 1-3Q実績	増 減
売 上 高	98,456	122,980	+24,524
売 上 総 利 益	19,213	27,467	+8,254
営 業 利 益	-352	3,248	+3,601
(営 業 利 益 率)	-0.3%	2.6%	+2.9%
営 業 外 損 益	13	397	+383
経 常 利 益	-338	3,645	+3,984
特 別 損 益	—	78	+78
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	-338	3,724	+4,063
法 人 税 等	314	1,177	+862
非支配株主に帰属する 四 半 期 純 利 益	330	262	▲68
親会社株主に帰属する 四 半 期 純 利 益	-984	2,284	+3,269

(百万円)

売上高 増減	主に海外事業が好調に推移 うち為替影響▲842	+15,527
営業利益 増減		
売上増影響		+4,782
売上総利益率改善(19.5%→22.3%)		+3,443
販売管理費増		▲4,653
営業外損益 増減		
為替差損益(215 ⇒ 409)		+193
外貨建資産の評価益が発生		

連結貸借対照表

資産：26/3期3Q末は、売上債権・契約資産の回収により現預金が増加。

負債：仕入代金の支払いにより買掛債務は減少。

(百万円)

	'25/3期 期末実績	'26/3期 3Q末実績	増 減
現 金 ・ 預 金	36,278	39,582	+3,303
売上債権・契約資産	109,214	71,044	▲38,169
仕掛品・貯蔵品	10,999	23,218	+12,219
そ の 他	3,685	11,169	+7,483
流 動 資 産 計	160,178	145,014	▲15,163
有形固定資産	6,674	12,171	+5,496
無形固定資産	17,706	21,761	+4,054
繰延税金資産	2,622	4,323	+1,701
そ の 他 ^{※3}	9,601	10,279	+677
固 定 資 産 計	36,605	48,535	+11,930
総 資 産 計	196,783	193,549	▲3,233

	'25/3期 期末実績	'26/3期 3Q末実績	増 減
買 掛 債 務	30,806	22,768	▲8,037
短 期 借 入 金 ^{※1}	(805) 805	(764) 764	▲41
契 約 負 債	12,944	22,250	+9,305
そ の 他	21,328	16,203	▲5,124
流 動 負 債 計	65,885	61,986	▲3,898
社債・長期借入金 ^{※2}	(14,620) 39,620	(13,900) 38,918	▲702
そ の 他	5,927	8,056	+2,128
固 定 負 債 計	45,547	46,974	+1,426
負 債 計	111,433	108,961	▲2,471
純 資 産 計	85,350	84,588	▲762
負債・純資産合計	196,783	193,549	▲3,233

※1 ※2 :カッコ内の数値はPFIなどプロジェクトファイナンス・ローンの金額 ※3 :繰延資産含む

連結キャッシュ・フローの状況

大型案件の入金により営業キャッシュ・フローは大幅増加。

(百万円)

	'25/3期 1-3Q実績	'26/3期 1-3Q実績	増 減	
現金・現金同等物の前期残高	14,219	35,683	+21,464	
営業キャッシュ・フロー	8,783	22,505	+13,722	売上債権回収 +9,018
投資キャッシュ・フロー	-1,501	-12,255	▲10,753	SBI株式取得ほか
フリー・キャッシュ・フロー	7,282	10,250	+2,968	
財務キャッシュ・フロー	1,660	-6,881	▲8,542	
現金・現金同等物の期末残高	23,161	39,052	+15,890	



目次

- I 2026年3月期第3四半期決算ハイライト
- II 2026年3月期 第3四半期決算概要
(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)
- III 「中期経営計画2027」の補足説明

事業名:「宇部市公共下水道西部処理区運営事業」

2025年11月、当社が代表企業を務める特別目的会社(SPC)「うべアクアフロント株式会社」が宇部市と「宇部市公共下水道西部処理区運営事業」における実施契約を締結。

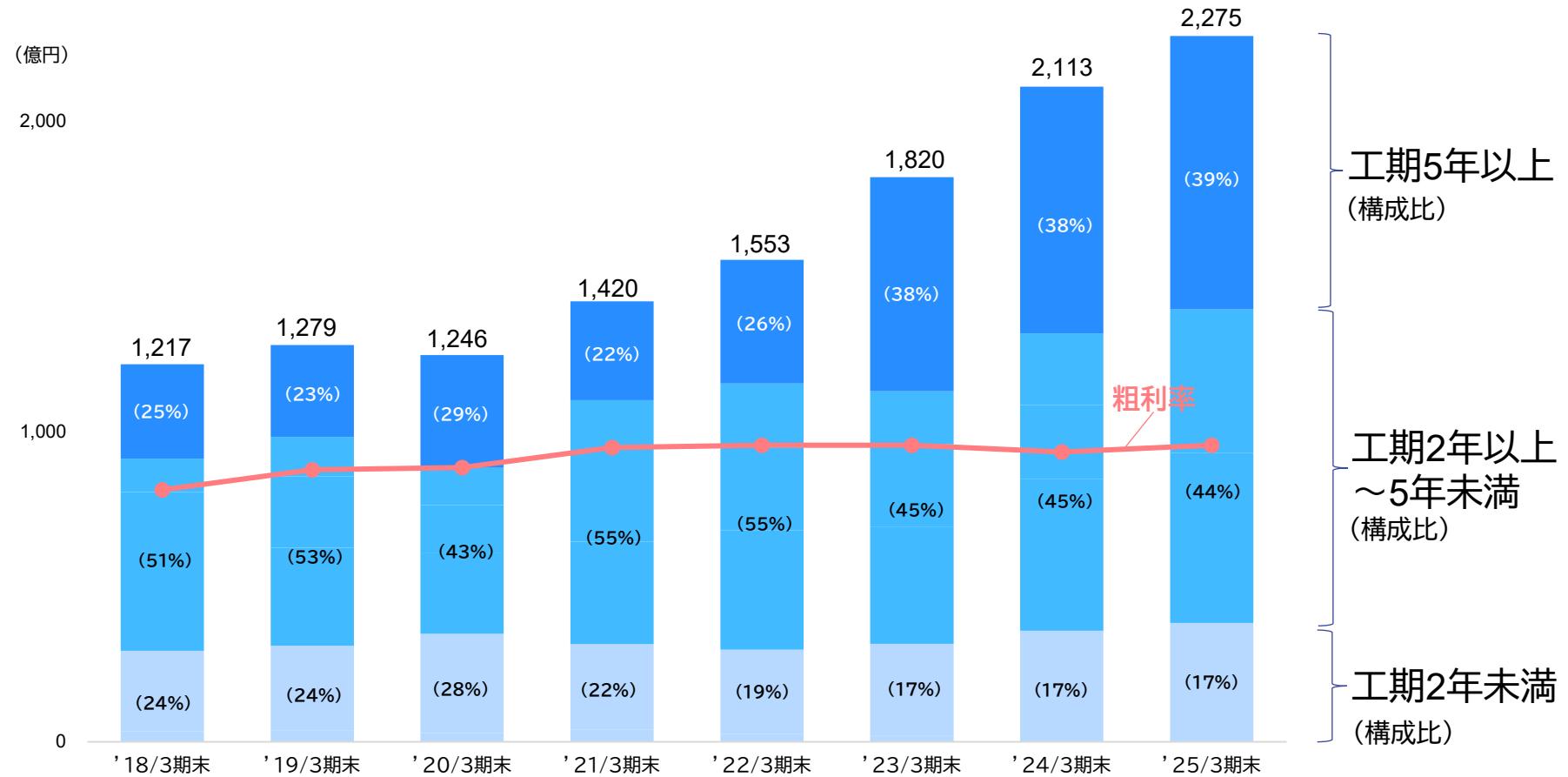
本事業は、宇部市がPFI手法(コンセッション方式)を活用して実施する公民連携(PPP)事業で、宇部市が施設の所有権を保持したまま、同社が「西部浄化センター」の管理・運営を行うとともに、同センターの場外施設を包括的民間委託によって維持管理することで、宇部市西部処理区の下水道施設を30年間の長期にわたって一体的に運営・維持管理をするもの。

事業の概要	
事業方式	コンセッション方式(公共施設等運営事業)および包括的民間委託
対象事業	西部浄化センターの運営およびポンプ場・マンホールポンプ場の維持管理
事業期間	2026年4月～2056年3月(30年間)
事業主体	うべアクアフロント株式会社(特別目的会社) 【出資企業】 メタウォーター株式会社(代表企業) フジ総業株式会社 ユーディーエンジニアリング株式会社 前村電気工事株式会社 大栄建設株式会社 UBE三菱セメント株式会社



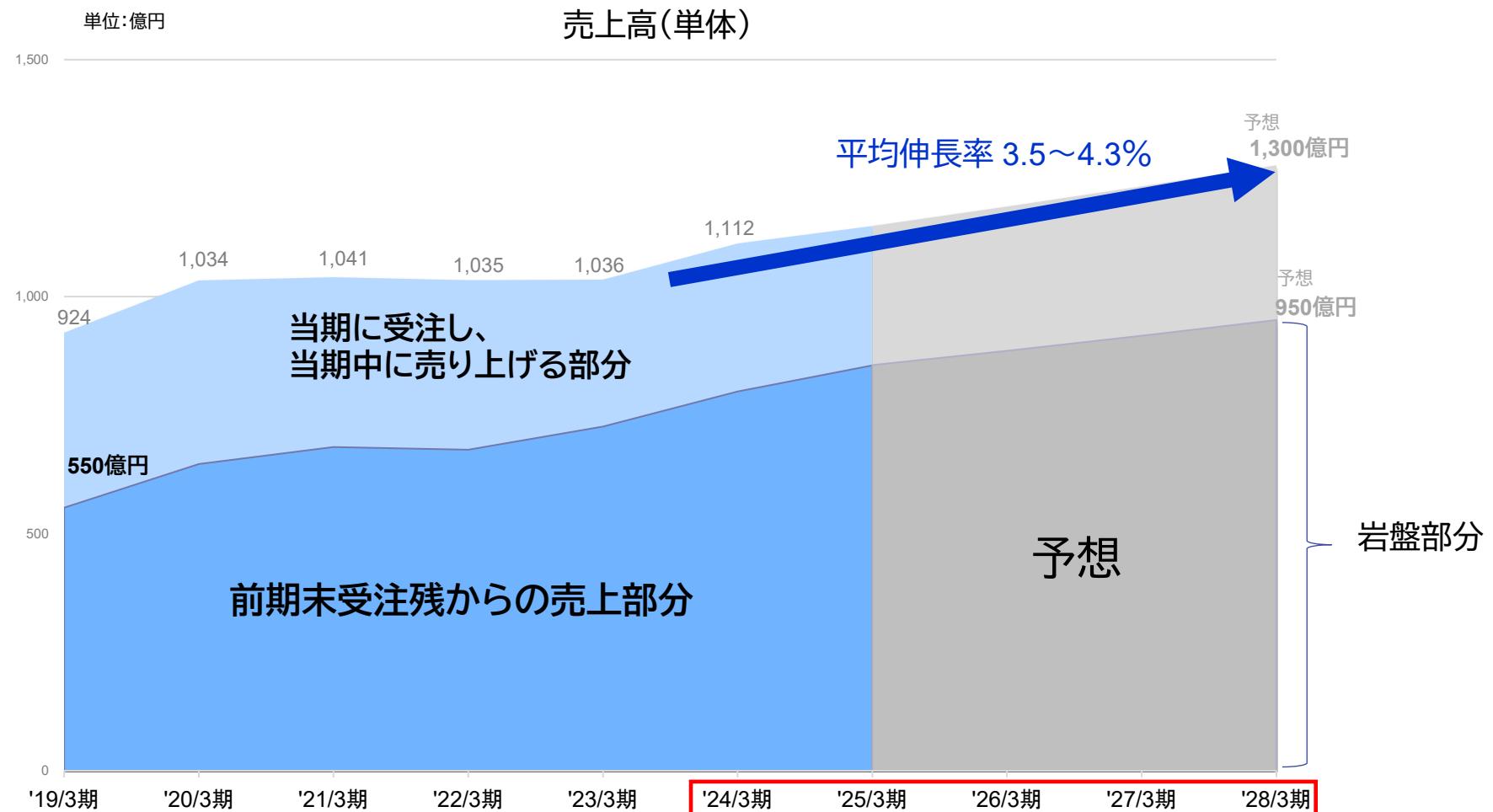
受注残高(単体)と粗利率の推移

長期・大型DBO案件の増加などにより、受注残高は毎期最高値を更新。
受注残に含まれる粗利(未実現)は一定割合を維持しており、案件内容は健全。



受注残高(単体)からの売上展開予想

前期末受注残からの売上展開により、売上高は安定かつ着実に伸長。



※ '25/3期以降の前期末受注残からの売上展開予想は、直近3カ年の売上展開平均率を使用。

海外売上高*の推移 *北米・欧州子会社のみ

北米:Aqua-Aerobic Systems社(AAS)を核としたラインナップの拡充。

欧州:独E&P社を軸にグループ間シナジーを強化し、欧州における基盤構築を目指す。



□環境エンジニアリング事業(略語:EE事業) 水環境事業、資源環境事業

国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設向け、**機械設備の設計・建設**および**保守・維持管理**を主たる業務としています。

□システムソリューション事業(略語:SS事業) システムエンジニアリング事業、カスタマーエンジニアリング事業

国内浄水場・下水処理場向け、**電気設備の設計・製造**および**保守・維持管理**を主たる業務としています。

□運営事業

国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル**施設の運営**を主たる業務としています。

□海外事業

海外浄水場・下水処理場向け、施設・設備の**設計・建設**および**保守・維持管理**ならびに**民需事業**を主たる業務としています。

略語	EPC	Engineering, Procurement and Construction: 設計・調達・建設
	O&M	Operation and Maintenance: 運転・維持管理
	PPP	Public-Private Partnership(公民連携): 公共サービスの提供に民間が参画する手法
	PFI	Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
	DBO	Design, Build and Operate: 公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法

コンセッション 公共施設の所有権と事業経営の許可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方とのつとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのつとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様に有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 経営企画室 コーポレートコミュニケーション部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp